

和田英

令和5年度冬季企画展

糸づくり（）に懸けた明治の女性（）

朝日新聞

日本橋通一丁目十九
出板人大倉源七

皇后宮
御詠
いそがし
ゆめのみ
あまのそ
大西代の
宿歌
あまのそ
あまのそ



和田英ほか男子1名肖像写真（部分 長野市立博物館蔵）
上州富岡製糸場工女勉強之図（部分 群馬県立歴史博物館蔵）

長野県立歴史館

令和6年 1月13日(土)～2月25日(日)
(2024)

- 休館日：月曜日(祝日の場合は開館)と祝日の翌日
ただし、2月12日(月)、24日(土)は開館
- 開館時間：午前9時～午後4時(入館は午後3時30分まで)
- 交通案内：長野自動車道「更埴IC」から車で5分
しなの鉄道「屋代駅」・「屋代高校前駅」から徒歩25分

主催：長野県立歴史館
後援：信濃毎日新聞社、朝日新聞長野総局、読売新聞長野支局、毎日新聞長野支局、産経新聞長野支局、中日新聞社、長野市民新聞社、市民タイムス、市民新聞グループ、長野日報社、南信州新聞社、NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、(一社)長野県ケーブルテレビ協議会、FM長野、FMぜんこうじ、屋代有線放送電話農業協同組合、(公財)八十二文化財団

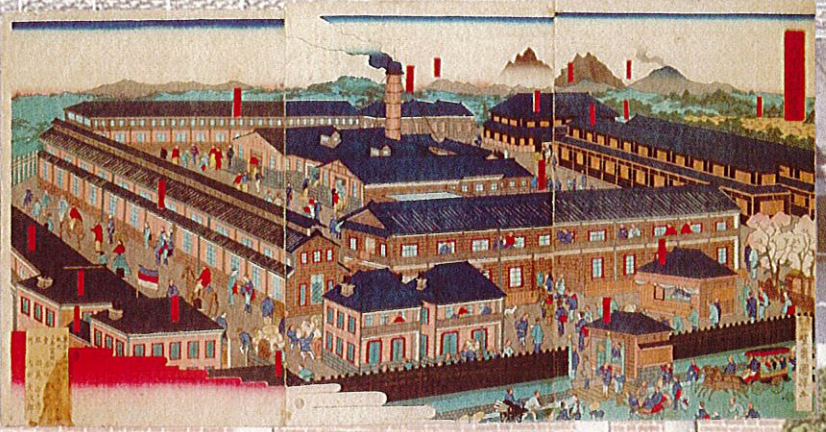
区分	企画展	企画展+ 常設展・講演会	常設展・講演会
一般	300円 (200円)	500円 (400円)	300円 (200円)
大学生	150円 (100円)	250円 (200円)	150円 (100円)

()内は20名以上の団体料金、高校生以下は無料

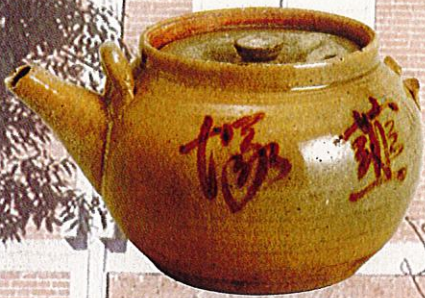
- ・大学生(高等専門学校4年生以上、専門学校生を含む)の方は、学生証の提示をお願いします。
- ・高校生以下、障害者手帳(身体・療育・精神)の交付を受けている方と付添者の方1名は、無料です。(要手帳提示)
- ・お得な年間パスポート(1,500円)も販売中です。

近代日本の主力輸出品であった生糸。富国強兵を目指した明治政府は、製糸業の近代化を図るため、国内各地に器械製糸技術を伝える官営模範工場として富岡製糸場を建設しました。

当時15歳だった和田（旧姓横田）英は、父の説得に応じ、富岡製糸場で技術を習得、現在の長野市松代に建設された六工製糸場をはじめとする県内製糸場で製糸技術指導の中心となって活躍しました。富岡製糸場の生活を記した「富岡日記」をはじめ、初公開となる和田英の書状、富岡製糸場の工女たちが使用した道具などの展示を通して、時代の変革期に地域の産業振興に青春を懸けた女性の姿をご覧ください。



歌川国輝画 上州富岡製糸場図（群馬県立歴史博物館蔵）



土瓶（富岡市教育委員会蔵）



「富岡日記」（個人蔵・長野市立博物館寄託）



びんつけあぶらつぼ 饗付油壺（富岡市教育委員会蔵）



横田家伝来陣羽織（真田宝物館蔵）

関連展示 館蔵シルクラベル大公開！

関連イベント

講演会 近代日本の蚕糸技術 —「富岡製糸場と絹産業遺産群」と長野—

講師 佐藤 有氏（群馬県立歴史博物館 学芸員）

日時 1月27日（土） 13:30～15:00

※講演会の聴講は、事前申込みとなります。募集開始など詳しい内容については当館公式ホームページでお知らせします。

体験イベント まゆクラフトを作ってみよう！

日時 2月10日（土） ①11:00～12:00、②13:00～14:00

料金 ①2024千支「辰」1点500円 ②お花のブローチ1点500円

③ストラップ1点300円

定員 各回20名

協力 駒ヶ根シルクミュージアム

※事前申込みとなります。申込みの際に上記の①～③からお選びください。

※募集開始など詳しい内容については当館公式ホームページでお知らせします。

※料金は製作する個数の金額となります。付添のみで製作されない場合はかかりません。



長野県立歴史館たより

2023年 冬号 vol.117

特集

和田英

糸づくり（に懸けた明治の女性）

朝寿筆



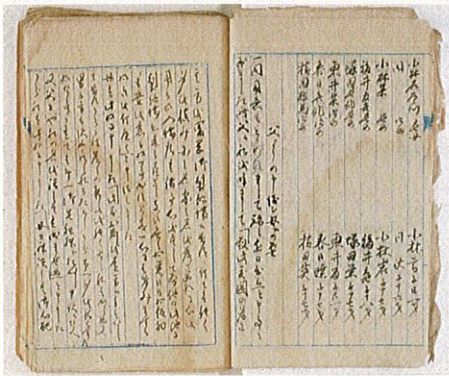
「和田 英 ～糸づくりに懸けた明治の女性～」

会期：令和6年1月13日(土)～2月25日(日)

はじめに

近代日本の主力輸出品であった生糸。明治政府は富岡製糸場の建設を計画し、全国から工女を募集しました。

父の説得に応じ、15歳で富岡製糸場へ入場した和田(旧姓横田)英は、近代製糸技術を学んだ後、



富岡日記(個人蔵 長野市立博物館寄託)

地元松代に建設された六工製糸場や県営長野製糸場などで糸づくりに励んだ女性です。英が後年にまとめた「富岡日記」、「続富岡日記」(個人蔵・長野市立博物館寄託)は、明治初期の工女の生活や思いが記された大変貴重な資料です。

1 幕末～明治の松代と横田家

幕末から明治初期の松代は、来航した外国船に対する警備や戊辰戦争の軍役、匱金の流布による経済の混乱などで非常に困窮していました。士族の収入も大きく削られる中で、産業の振興は重要な課題だったのです。

松代藩に仕えていた、英の生家である横田家も、松代の繁栄のために熱心に取り組んでいました。祖父や伯父は、千曲川通船による物流の改善を図り、父の数馬は、藩の財政再建に奔走しました。また、母である亀代は、子どもたちを積極的に遊学させるなど独自の教育方針で英らを育てました。こうした家族の姿は、英にも大きく影響したと考えられます。今回の展示では、初公開となる英と家族の結びつきを示す書状も展示します。



和田英書状(真田宝物館蔵)初公開

2 富岡製糸場と工女

渋沢栄一や、初代場長の尾高惇忠、フランス人技師のP・ブリュナらの奔走により、1872(明治5)年、現在世界遺産となっている富岡製糸場が完成、操業を始めました。

工女たちは、生糸の生産に切磋琢磨したことはもちろん、一人の女性として食事や祭を楽しみ、遠く離れた家族を思いながら富岡で懸命に働いていまし



びんつけあがらつば 蟹付油壺(富岡市教育委員会蔵)

た。今回の展示では、英とともに富岡へ入場したかすがちよう春日蝶の書簡(個人蔵・群馬県立歴史博物館寄託)や工女が使っていた皿や化粧道具(富岡市教育委員会蔵)など、富岡における工女の姿をうかがい知ることができる資料を展示します。工女の生活を想像しながらご覧ください。

3 富岡退場後の和田英と六工製糸場

英は富岡退場後、故郷松代に建設された六工製糸場や県営長野製糸場において後進の指導にあたり、結婚を機に糸づくりから引退しました。

英が指導した六工製糸場は、1875(明治8)年に本格的な操業を開始、1879(明治12)年には国内の品評会である共進会で2等を(「生糸繭共進会一件」当館蔵)、1904(明治37)年にはセントルイス万博において大褒賞を(「セントルイス万国博覧会大褒賞」

長野市立博物館蔵) それぞれ受賞するなど、日本、そして世界に認められる品質の生糸を生産するまでになりました。



セントルイス万国博覧会大褒賞(長野市立博物館蔵)

おわりに

今回の企画では、松代の窮状や母を中心とする横田家の家族が英の生き方に大きな影響を与えたことや、糸づくりだけでなく食事や化粧、休日の楽しみなど、富岡においてそれぞれの工女が一人の女性として生活していた様子、英が指導し、地元の工女がつくった糸が、日本・世界で認められる品質になったこと、などをご紹介しますと考えています。

時代の変革期である明治初期に、困難を乗り越え、国や地域の産業振興に懸けた女性たちの姿に思いをはせてご覧いただければ幸いです。

(内城正登)

文献資料をよむ

長野県行政文書にみる関東大震災

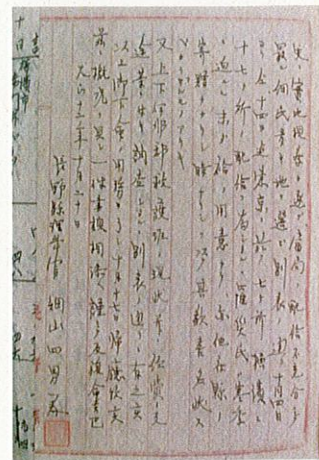
今年(2023)は1923(大正12)年の関東大震災発生から100年にあたります。当館蔵の「長野県行政文書」には、関東大震災に関する様々な公文書の綴りが30冊近く含まれており、長野県と震災との関わりを知ることができます。中でも、県からの援助物資の輸送監督と罹災民救護のため、震災直後の東京に派遣された県官吏たちの活動に関する文書や記録は注目されます。

派遣代表者の畑山四男美は高知県の出身で、のちに福島県や福岡県の知事を務める人物ですが、当時は長野県の理事官の立場にありました。9月4日に信越線で東京に向かった畑山は途中、京浜地方からの避難民が「悲鳴ヲ拳ゲテ汽車ニ満載鈴ナリ」となっていたと記しています。上野駅が焼失していたことから、6日に東京の田端駅に到着した畑山は、ここに県の出張所を開設します。以降、10月17日に帰県するまで、被災地の状況や必要な物資の情報などについて県と連絡を取り合いながら援助物資の輸送や配給作業などに従事しています。一連の記録からは、長野県による援助物資の調達とその送付の経過を克明に知ることができます。

一方、震災後の混乱状況に関する記述も見えます。畑山は田端駅で事務所の設置場所を探した際、「不逞鮮人」(政府に不平を抱く朝鮮人という意味で当時用いられた語)の活動を恐れる市民たちにより、容易に借り受けられなかったと記しています。別の県官吏も、朝鮮人たちが橋や民家に放火を企てているという情報が流れ、激昂した市民たちが朝鮮人を「容赦ナク滅殺スル勢ヒ」であると9月6日の日誌に記しています。震災発生後、「朝鮮人が暴動を起こして放火した」という根拠のない情報が被災地において飛び交い、恐怖にかられた人々により多数の朝鮮人が殺害されたことが、様々な史料から明らかにされています。混乱の中で誤った情報に惑わされる人々の様子を伝える記述を長野県の公文書にも見ることができるのです。

災害時の援助はどうあるべきか。誤情報が飛び交った場合にどう行動すべきか。関東大震災の検証を通じて、現在の災害時に生かすべき教訓を見出していくことが求められます。

(花岡康隆)



畑山四男美の復命書(部分)
([大正12年]京浜震災事務関係書類)

INFORMATION

インフォメーション

■2023(令和5年)12月～ ■2024(令和6年)3月の行事予定

12月

休館日

4・11
18・25
28～1/3



講座・イベント

県立歴史館講座③

12月9日(土)

「赤い土器のクニ
— 邪馬台国時代へのあゆみ—」

町田勝則(当館総合情報課)

特設考古学講座③

12月16日(土)

「木製品の保存処理と修理②」

行事アルバム

***** 夏季企画展 *****



夏季企画展関連イベントとして7月22日にワークショップを行いました。県内にある前方後円墳の形をプラ板にトレースし、ストラップを作りました。参加した15名の親子は、「前方後円墳といっても色々な形があるんだね。」と話しながら楽しそうに作成していました。ぜひ古墳の現地にも訪れて、古墳に愛着を持ち続けていただきたいと思います。

***** 歴史館で夏休み *****



8月6日「歴史館で夏休み」を開催しました。昭和時代のレコードの実演に懐かしがる大人や、不思議そうにのぞく子どもの姿がありました。「どきもどき」では実物大の土器片や土偶の顔のレプリカに、好きな色をぬってマスコット作りを楽しみました。

1月

休館日

～3・9
15・22
29

冬季企画展

和田 英

～糸づくりに懸けた明治の女性～

1月13日(土)～

2月25日(日)

講演会

1月27日(土)

13:30～15:00

「近代日本の蚕糸技術
—「富岡製糸場と絹産業遺産群」と長野—」

講師 佐藤 有氏

(群馬県立歴史博物館)

体験イベント

2月10日(土)

①11:00～12:00

②13:00～14:00

「まゆクラフトを作ってみよう!」

講師 羽柴小百合氏

(駒ヶ根シルクミュージアム)

料金:干支の辰、花のブローチ 各500円
ストラップ 300円

定員:各回20名(事前予約制)

※2月27日(火)～3月1日(金)は、
収蔵庫点検のため休館となります。



KOAの日(歴史館無料開放)

1月20日(土)

体験イベント・プラ板マスコット作り



3月

休館日

1・4
11・18
21・25

春季企画展

2024年 所蔵品展

「至宝の名品

—学芸員のイチオシ

長野県民がみた

幕末から現代—」

3月23日(土)～

6月16日(日)

県立歴史館講座④

3月2日(土)

「古代刀剣の保存処理・修復」

白沢勝彦(当館考古資料課)

親子映画会

3月16日(土)・17日(日)・

19日(火)・20日(祝・水)

長野県立歴史館たより 冬号 vol.117

2023(令和5)年12月5日発行

編集・発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市大字屋代260-6
電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996
E-mail rekishikan@pref.nagano.lg.jp
ホームページ <https://www.npmh.net/>

印刷 日本ハイコム株式会社